初の東京公演で涙…松山千春

東京での「松山千春ファースト・コンサート」は、あまり知られていない北海道のローカル歌手なので大きな会場でみじめな思いをしてはーとの配慮から「山本マネージャー」定員七百名の新宿厚生年金会館小ホールで十一月十六日に初の東京のステージに立ちました。

ところが意外にも会場は満席で、立見でもいいからという人々も入れたもののそれでも多くの人に帰ってもらったという盛況ぶり。

舞台には北海道のシンボルツングラーデーの先駆の中島みゆきや千春の作詩、作曲ものを歌っているピコモの間からおくられた花束が飾られ千春は例によって北海道弁丸出しで客席を笑わせながら十九曲を歌いましたが、おわりに近づいてデビュー作の「旅立ち」に入ると、ハンカチを出した竹田陽一ディレクターの『千春よ、がんばっていずれは東京公演を。でも歌える歌手になって。』と泣けてくれた言葉が思い出され、この感動を竹田さんにみてもらいたかったーとばかりに涙、涙：涙で歌にならない始末でしたが、それでも客席からは感激と歌詞の拍手にアンコールの声援によって無事に終

ステージをおえました。

そのもようの一部は翌日午前三時からのオールナイトニッポンで録音放送されましたがこれに対して読者の方々から多くのお便りを頂きました。

読者の室

や、オールナイト日本を聞き終ったところです。東京でのコンサート成功おめでとう！

千春、また会いたいもやいましたね。

私、コンサートの様子を聞いて、雨幕でのコンサートを思い出して、私まで泣いちゃいました。

でも千春の泣いたのを聞いて、うれしかった。

千春は、やっぱりあの時と同じ千春だったから。

心がやさしくて涙もろい田舎の千春、そのままだったから。

私、千春とあってから無言になったの。

今までは人に泣き顔を見られるのがいやだったし、とっても意地っぱりだったの。

でも千春の歌を聞いていると、心が落ちついて素直になっちゃうんです。

この頃は、忙しくて足客にいること少ないと思うし、そして、忙しくて家に帰っても、いちいちすることもあると思うけど、千春は上にお母さんとお父さん、心配してると思うの。

千春よりも年下の私が、こんな事言ったらおかしいかも知れないけど、両親を今までは上に、大事にして下さい。

それでは体に気をつけてがんばって下さい。

（函館のU・Eさん）

★　★

ちはるさま、こんにちは東京のコンサート、大成功に終ってよかったですね。

オールナイトニッポン聞いていて、ちはるの心の強さと、なにかをひきつけるなんともいえない、魅力があるように思われました。

でも東京の人って、とっても団結力が強いんですね。ちはるがないもやって、うたえなくなったら、一緒にうたって下さったものね。

私達が聞いてても、すっごく感激しちゃいました。

これからも、ちはるらしさを忘れないで、道内のコンサート、仙台、山形などのコンサートも、大成功に終らしてほしいと思います。

（旭川のK・Kさん）

★　☆

私、みんなのようにうまく書けないんですけど、千春にもお父さまにも、感謝してるんです。

私こんなに明るくなれたのは、千春のおかげです。

お父さまも、新聞のおかげなんです。

私十六才にもなって、すごく内気で陰気な娘だったんです。

でも千春の話を聞いているうちに、なんかうれしくなっちゃって、つい笑っちゃうんです。

学校でも、いるかいないかわからない私だったのに今は毎日友達と、千春のこと話しているうちに、私も一緒にさわげるようになったのです。

そして、お父さまの新聞のことで、いつも友達と話が早くきたかなんて、まわいです。

早くきた人が学校に持ってきてみんなに、見せちゃうの。

いつもおそいのですけれど、それでみんなにからかわれたりして、なぜかみんなと一緒にさわげて、明るくなれたんです。

友達もやっぱり、千春は偉大な人だって、私が明るくなれたのは、千春がいたからだねって、言ってます。

なんかうまく書けませんが、私こんなに明るくなれて、友達もたくさんできてほんとうに感謝してます。

どうもありがとうございました。

お父さま、元気でこれからも、新聞がんばって下さい。

千春のことも、ずっと応援します。

（札幌のM・Nさん）

★　★

私は、松山千春のような人間になりたい。

まじめにこれが私の夢です。

理由はたくさんありますが、一つは自分の考えをしっかりと持っていてその考えを堂々とのべることが、できるということだ。

それでもって、その考えが二十一とは思えないほどに、りっぱだということだ。

だから、とっても尊敬してるんです。

私の尊敬している人は、松山千春！

ファッションセンスのほうは、だんだんとあかぬけて行ってますが。

それが心配。もしかしたら、きたさんのセンスのよさにひどく影響され、千春センスからきたセンスに変わり、マッチャのリクタスにピンタのパンツ……

おそろしい！

ファンクラブは作らないのですか？

私は、普段ファンの人たちとの話し合いというものがない人が、ファンクラブを作って少しでもファンと接することができるようにしてるって、感じがする。

でも千春はDJやってるから、聞いているとそれがファンクラブみたい。

ファンの人たちが、聞くでしょう、それでハガキ読んだりして、そのことについて千春がしゃべる。

ファンはハガキを出す。

そしてまたそのことについて、千春がおしゃべりをする。

だからもう、千春の放送がもファンのつどいみたいに思うと。

別に、ファンクラブを作らなくてもいいと思うけど

では、さようなら。

（音更のK・Nさん）

ヤングハート77

竹田氏の遺影を前に

十二月一日に札幌市の北海道厚生年金会館でひらかれた第一回の「ヤング・ハート77」の催しは、故竹田敏二氏にかかわりのあった人々歌手の勢ぞろいで客席には亡氏の遺影をかかげて観賞する姿に、千春は「旅立ち」「白い花」「この道より道廻り道」などを歌いました。

竹田氏をしのんで思い出ばなしを交えながら涙をうかべての歌いぶりに客席からすすり泣きがもれていました。

この催しの収益は竹田氏亡人に差しあげることにしています。

ことし前半　千春のレコード使用順

日本著作権協会では、このほど本年一月から六月までの千春のレコードを放送その他で使用した実績を発表しましたが、それによる使用順位はつぎのとおりでした。

旅立ち
かざぐるま
銀の雨
初恋
足音より
大空と大地の中で
ホホーヅタの歌
おやすみ
君のために作った歌

主筆の室

今日限り
この道より道廻り道
ためらい

これは各放送局に対するリクエストの反映と思われます。

千春は放送やコンサートでいつも『パパ・原

「パパ・くりやま」

（高1の千春と小5の弟人と父と札幌の中島公園で）

ローカルタレント奮戦記

アサヒグラフの十一月二十五日号に「ローカルタレント奮戦記」と題して、仲間のコメディアン中山幸四郎（48）、熊本のニッカボッてん黄川（40）、広島のD・J荒木マサー（39）、仙台（D・J山田華野子（39）」について北海道は千春が大阪二頁にわたって紹介されています。

「頭はショーケン、歌は浦安」という見出しで、ナレは足客の心を歌うというそれはともかくとして、函山で生れた私は、朝から晩までトンチンカンのクチ音で育ち、春から秋にかけては馬車の蹄鉄めが大仕事で、一家総出で何徹もの太鼓を使いて鉄輪が真赤になったところで馬形にはめて水で冷やして接めつける冬は馬ソリの乾金のとりつけが主な仕事で、当時の農家の運搬、交通は馬車と馬ソリだったわけです。

深山尋常高等小学校の卒業式では級長をしていたので「以上総代松山千春」と呼ばれて全員の卒業証書を校長先生から受領しました。

この町では成績のよい卒業生を無行で採用する習慣になっていて学校から人社千春の現況を記事にして、大きな写真を三枚、時計台の前でたった一人で、多勢のファンにとりかこまれているところと、STVでアク・ケンを特別中の舞踊などが、グラフ誌らしくバッチリ掲載されています。

をすすめられましたが、父はなぜか『人に使われる人間になるな』といい、カジ屋の方は兄がつぐので、私はものを書いて生活のできる人間になろうと決意しました。

そこで、早稲田大学の講義録で通信教育をうける仲間で『独学青年同志会』をつくって自ら会長になりながら当時の北海タイムス（現在の道新）の通信員になって、町のできごとを取材して本社へ送り、その原稿が新聞の二段、三段抜きで掲載されることに生きがいを感じていたものでした。

このあと札幌に出て東京朝日新聞支局ではたらきましたが、そのときの橋本登美三郎支局長がいまはロッキード事件の被告とはオドロキですが、きすが日本で最大の新聞だけにアカ抜けた編集、するどい社説、シャれた見出し、充実した学芸、業能欄には大いに勉強させられました。

この「千春特集号」は毎月二回発行で購読料は送料とも月二百円、一か年前納は二千円ですっこ希望の方は郵便小為替で普通郵便が格安郵利です。